

## 4月の植物

### カキドオシ (シソ科)

学名 : *Glechoma hederacea* L. subsp. *grandis* (A.Gray) H.Hara

田畑周辺の草地に多い多年草。茎は白毛で覆われ細い四角形で葉の縁には浅いギザギザがあり、ほぼ円形で対生する。4~5月ごろ淡紫色の可憐な唇形花が咲く。花が終わると、それまで直立していた茎が地面を這って広がる。

分布は北海道、本州、四国、九州。山野草として食べるには若くて柔らかな茎葉は根本からちぎり、塩を一つまみ入れて3分ほどゆで、水にさらす。小さく刻んでごまとからし醤油などとの和え物にする。天ぷらにするときは、生のまま茎ごと、花がついたまま、薄めのころもをつけて形よく揚げるとよい。

和名の由来は、茎が垣根を通して広がっていく様子になんで垣根通しと呼ばれていたものが「垣通し」となった。別名のカントリソウは民間薬で子供の疳の虫を取り除くのにつかわれたもの。

薬効は、解熱、利尿、強壮、糖尿病、腎臓炎の民間薬として使用するほか、また、子供の疳に6~19gを茶剤とする。全草を使用し、6~10月に採取したものを日陰で乾燥して煎じて服用する。

(文責 小池 英毅)



2022.3.25 武雄町川良 田の畦にて



摘み取ったカキドオシ



和えもの



かき揚げ

参考文献：四季の野の花図鑑、九州の花図鑑（益村聖）、ポケット佐賀の薬草（佐賀県薬剤師会）、早わかり食べられる山野草12か月（主婦と生活社）